



内閣府（防災担当）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（第8回） 議事概要について

1. 検討会の概要

日 時：平成29年2月6日（月） 10：00～12：00

場 所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：佐竹座長、入倉委員、岡村委員、平川委員、平田委員、古村委員、三宅委員

2. 議事概要

事務局から検討状況の説明を行い、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震について審議を行った。概要は、次のとおり。

- 津波の計算に用いる堤防データについて、東日本大震災後の復旧事業が各地で進められていることを踏まえ、可能な限り最新の地形を反映すべき。
- 大きなすべりが生じる領域について、海溝軸付近の浅い場所が大きくすべる場合と内陸側の深い場所で大きくすべる場合では地形変化の場所も変わってくる。その地形変化の痕跡を評価し、超大すべり域を設定する場所を検討すべき。
- 海溝軸付近に超大すべり域を設定し、断層の同時破壊で津波を計算した場合、水位を打ち消し合い津波高を過小評価する効果があるため、断層を時間差で破壊するモデルも検討すべき。
- 津波堆積物があまり確認されていない下北半島を含め、津波堆積物について、各種調査結果を収集するだけでなく、互いの調査結果の比較・検証し、調査結果の信頼性を確認すべき。
- 太平洋プレートの運動方向は日本海溝沿いと千島海溝沿いでほとんど同じであるため、日本海溝側の方がdip方向のすべりが大きくなり、津波高に影響する。日本海溝と千島海溝の境界付近のすべり量の設定において、千島海溝沿いの津波堆積物を説明するすべり量をそのまま適用する必要はないのではないか。

＜本件問い合わせ先＞

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当企画官 森本 輝

同参事官補佐 池田 雅也

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-6820